

の専務としての體験を語り縣下に於ける産業組合の情勢にも及び、産業組合党などの問題もあるが産業組合の大衆化は現在のやうな状態では到底多くを期待し得ず例へば実行組合の産業組合への加入に關しても産業組合が全く反対の態度を採つてゐるのが実情である。

其の他

右の産業組合も或はまた実行組合もそれか團體として經濟行爲を遂行してゆくに當り貧農階級を含め即ち、貧農層にまでその利を及ぼさうとすると多くの場合組合としては失敗に歸する懼が多分にあるかに見えたことは最も留意するべきであつた。

なほ川俣、須永、茨谷その他の諸氏から斯かる懇談の機會に農林當局その他からの出席をも得て農民の眞情を聽いて貰ひ度く殊に、現在行はれてゐる農村更生の問題については地方農民としても農民組

合關係者としても充分聽いてほしいものか多々あるから是非ともやうした機會を作られたいと要望された。(宮本 倫彦 記)